

[平成14年度 普及に移す技術]

[普及に移す技術] 粘着シートを用いたアカヒゲホソミドリカスミカメの発消長調査							
[要約] 粘着シートを水田内に設置し、アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数をしらべることによって、発消長(発生時期・発生量)を正確に把握することが可能である。							
農業試験場・生産環境部・昆虫研究グループ 病害虫防除室				契機	普	要請元	南越・丹生 農林総合事務所
部会名	生産環境	専門	作物害虫	対象	稲類	分類	普及

[背景・ねらい]

本県でも県下全域で、アカヒゲホソミドリカスミカメが急増傾向にある。これまで、予察灯による発消長調査を行っているが、現在、予察灯は県内5ヶ所しか設置されていない。また、アカヒゲホソミドリカスミカメの発生の多い地域に設置されているとは限らない。そこで、予察灯に代わる簡易で精度の高い調査方法を開発する必要がある。

[技術の内容・特徴]

1. 6月～8月に水稻早生品種の栽培圃場内に粘着シート(商品名ITシートイエロー日東電工社製)を1mに切断し、高さ約1mに5～10ヶ所設置する(図3)。
2. 粘着シートに付いたアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の数を2日から5日毎に調査する。
3. 粘着シートと予察灯における誘殺数を比較すると、アカヒゲホソミドリカスミカメの発消長は、ほぼ一致する(図1, 2)。
4. 早生品種の出穂期頃に発生し、被害を与える第2世代成虫の発生最盛期を正確に把握できる(図1, 2)。

[技術の活用面・留意点]

1. 予察灯のない地域でアカヒゲホソミドリカスミカメの発消長を把握できる。
2. 粘着シートは風向に対し、粘着面が垂直になるように設置する。
3. 粘着シートは、7日毎を目安に交換する。

[具体的データ]

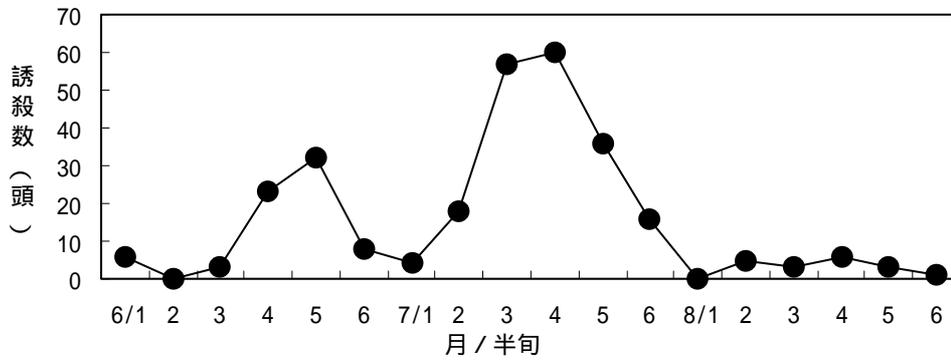


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況
(粘着シート・福井農試予察田)

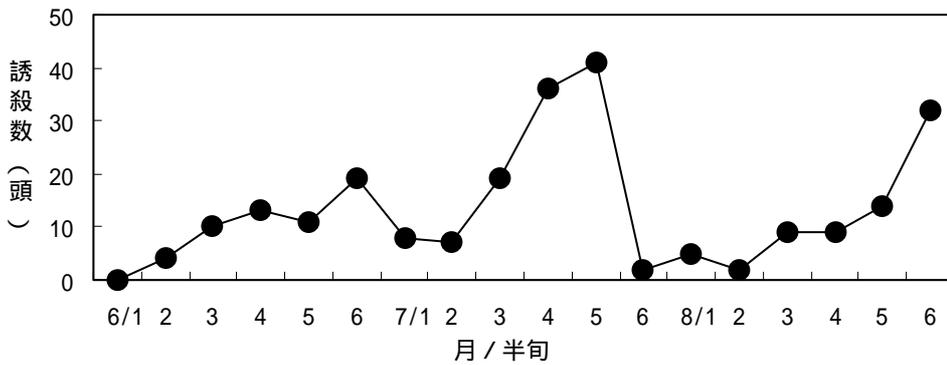


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況
(福井農試果樹園100W水銀灯)

図3 粘着シートの設置方法

